

詩篇24:1-10「王を迎える」2025年7月27日

導入：

おはようございます。クリス・レンフローです。ホープ・チャーチ・ユニオン・ヒルの主任牧師を務めています。YIBCの皆さんと、イエス・キリストと共に仕えるパートナーシップに本当に感謝しています。今朝は詩篇24篇を見ていきますので、聖書をお持ちの方は詩篇24篇を開いてください。

導入—詩篇24篇を読むにあたり、聖書の歴史を簡単におさらいしましょう。この詩篇は、敵地にあった主の箱がエルサレムに運び込まれる際に歌うために、ダビデによって書かれたものだ、とほとんどの学者が考えています。出エジプト記40章で幕屋が建てられます。神はご自身の臨在を象徴する主の契約の箱を作るよう民に指示されました。神の栄光は、昼は雲の柱、夜は火の柱となって幕屋に宿りました。民は40年間荒野をさまよった後、約束の地に入りました。約束の地に来て350年余り経ち、エベン・エゼルと呼ばれる場所での戦いで、彼らは苦戦を強いられていました。そこで、お守りとして、主の契約の箱を戦いに持っていくことを思いつきました。そして、主の箱を失ってしまいます。ペリシテ人は主の箱を取り去りましたが、それが結局のところ彼らにとっては呪いとなりました。ペリシテ人は牛に箱を引かせて、送り返そうとしました。ですが、それはバース・シェメスというところで止まってしまいます。

サムエル記第一6:19-21「19 主はベテ・シェメシュの人たちを打たれた。主の箱の中を見たからである。主は、民のうち七十人を、すなわち、千人に五人を打たれた。主が民を激しく打たれたので、民は喪に服した。20 ベテ・シェメシュの人たちは言った。「だれが、この聖なる神、主の前に立つことができるだろう。私たちのところから、だれのところに上って行くのだろうか。」21 彼らはキルヤテ・エアリムの住民に使者を遣わして言った。「ペリシテ人が主の箱を返してよこしました。下って来て、あなたがたのところに運び上げてください。」」

そういうわけで、彼らは主の箱を取りに来てほしいと頼みました。そして、アビナダブという男の家に主の箱を運びました。20年間、主の箱はアビナダブの家に置かれていました。時は流れ、ダビデが王に任命され、サウルは死にました。そしてダビデが王として最初に行ったことは、主の箱をそれがあべき場所に戻すことでした。

彼は箱を荷台に乗せ、アビナダブの二人の息子を付き添わせました。その途中、くぼみに車輪がとらわれ、二人の息子のうちのウザが箱を支えようとしますが、彼は打たれ死んでしまいます。ダビデは神に怒り、神を畏れました。そこで、車をとめて主の箱をオベデ・エドムのお家にしました。3か月間、神はオベデ・エドムを祝福されました。3か月後、ダビデは主の箱をエルサレムに運び入れる準備を整え、荷車ではなく、正しい方法で、モーセが主の箱を運ばせたのと同じようにレビ人に竿を担いで運ばせ、喜びと踊りをもって箱をエルサレムに運び入れました。そのようなことがあったのちに、ダビデはこの時のためにこの詩篇を書いたのです。

詩篇24篇の中心は、私たちも自分たちの人生に王を迎えるのだということです。心の扉を大きく開いて、神を迎え入れる。一度きりではなく、私たちの人生において日々です。栄光の王をどのように迎え入れるのでしょうか。

まず、1) 神がどのような方なのかを認めることです。詩篇24:1-2「1 地とそこに満ちているもの 世界とその中に住んでいるもの それは主のもの。2 主が 海に地の基を据え 川の上に それを堅く立てられたからだ。」

1節と2節によれば、神は天においても地においても、すべてのものの所有者であり、創造主であります。それが何を意味するのでしょうか。

A)すべては神のものです。神は万物の創造者であり、万物の維持者です。

万物の創造者であり、維持者である方とはどなたでしょう。私たちの教会ではコロサイ人への手紙についての説教をちょうど終えたところです。

コロサイ人への手紙1:16-17「16 なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために造られました。17 御子は万物に先立って存在し、万物は御子にあって成り立っています。」

(一般的な意味で) 主のものであるのは地だけではなく、それを満たすものすべてです。お子さんがおられる方はお分かりになるかと思いますが、私の子どもたちは何かが自分たちのものだと言いたがります。我が家のソファには一番座り心地の良い場所があります。子どもたちはいつもその場所を「彼らの場所」だと言いたがります。時々、私は言って聞かせなくてはなりません。家の中で彼らの場所と呼べる場所はないということを。家は彼らのものではないし、ソファも彼らのものではありません。庭も食べ物も違います。

B)万物は主の栄光を反映する

つまり、全ての被造物は創造主の栄光を現すということです。アウトドア派の方はおられるでしょうか。私は長男と父子旅行をするのですが、5月にコロラドに行ってきました。ロッキー山脈国立公園は美しかったです。荘厳で、素晴らしかったです。ですが、それ自体が神ではありませんでした。創造主に従うもので、創造主の栄光を現すものでしかありません。神の創造物はその栄光を現します。山々も海も、自然は神の栄光を映し出します。砂浜も主の栄光を現します。月も星も主の栄光を現します。あなたや私は特に主の栄光を現しています。私たちは栄光を現す特別な存在、イマゴ・デイ（神の似姿）です。

これは私たちにとって何を意味するのでしょうか。

私たちは神を信頼することができます。すべてを支配される方を信頼することができます。そのことを信じておられますか。全てが主のものであるとしたら。私たちの生き方を変えることでしょう。神はすべてを支配され、すべてを維持し、すべてを治めるにふさわしい方です。特に神の民については、です。

二つ目に、栄光の王をどのように迎えるのでしょうか。

2) 主が成し遂げてくださったことに安らぎを得ます。詩篇24:3-6「3 だれが 主の山に登り得るのか。だれが 聖なる御前に立てるのか。4 手がきよく 心の澄んだ人 そのたましいをむなしいものに向けず 偽りの誓いをしない人。5 その人は 主から祝福を受け 自分の救いの神から義を受ける。6 これこそヤコブの一族。神を求める者たち あなたの御顔を慕い求める人々である。セラ」

この個所のどこに安らぎがあるのかと言われるかも知れません。主の山に登るとはどんな山なのでしょう。緩やかな坂でしょうか、あるいはエベレストのような山でしょうか。きよい手、澄んだ心、どちらも安らぎとは思えません。ダビデがこの詩篇を書いたとき、いかに聖さを必要としていたかがお分かりかと思います。神の臨在に近づく者、あるいは神の臨在について誤った見方をする者、そして誤ってその臨在に触れる者は殺されることをダビデは認識していました。真の権威ある方の御前に出るには、準備が必要です。

権力や権威ある立場の人、あなたの会社のCEO、有名人や、あなたの配偶者になる可能性がある人。しかし、聖なる神の前に出ることと比べたらどうでしょう。

ダビデは神の御前に近づくための条件を述べています。

A)きよい手 -外面的なこと -それは正しい行いであり、文字通り罪の意識がないことです。

B)澄んだ心 -内面的なこと -非難されるところがないこと -純粋な動機や思い、感情。

C)偽善的でない -主以外のものを追い求めないこと。

D)偽りがなく -心に偽りや間違った動機がないこと。

これらは一つの問題を突きつけます。誰がその山に登ることができるのか。誰が主の御前に出ることができるのか。

チャールズ・スポルジョンは「被造物が創造主のもとへ行くのは上り坂を上がるようなものである。そびえ立つ高みに上ることのできる力強い登山家はどこにいるだろう。」と言いました。現実には、私たちは誰も主の山に登れるほどの強さを持ってはいません。

主の御前に立つことができるほど正しい者は一人もいません。主の御前に出ることができるほど聖い者もいません。今朝あなたはそんなこと無理だと仰るかも知れません。自分はダメな人間だし、強くもない、聖くもない…あなたは、これまでこの地上を歩んできたすべての人たちと何ら変わりません。私たちの誰もが神のもとに行くことはできませんでした。だから神が私たちに道を備えてくださったのです。

ヨハネの福音書1:14「14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」

主は私たちの身代わりとなってくださり、私たちにご自分の義を与えてくださいます。

私たちの義が主の内にあるのなら、ダビデが詩篇24:5に記した祝福をいただきます。そこには「5 その人は 主から祝福を受け 自分の救いの神から義を受ける。」とあります。

これは私たちにとって何を意味するのでしょうか。私たちの身代わりとなってくださる方の内に憩うことです。

今日この方のもとに憩いましょう。もがいておられますか。苦勞しておられますか。絶望されていますか。今日、主のうちに憩うことができます。

主はあなたの身代わりとなってくださいます。主が働いてくださるのです。

最後に、栄光の王をどのように迎えるのでしょうか。

3) 心に主を迎え入れる 「7 門よ おまえたちの頭を上げよ。永遠の戸よ 上がれ。栄光の王が入って来られる。8 栄光の王とは だれか。強く 力ある主。戦いに力ある主。9 門よ おまえたちの頭を上げよ。永遠の戸よ 上がれ。栄光の王が入って来られる。10 栄光の王 それはだれか。万軍の主 この方こそ栄光の王。セラ」

これは詩的な呼びかけと応答の典礼です。人々は「門よ、おまえたちの頭を上げよ。」と歌いました。「永遠の戸よ 上がれ。栄光の王が入って来られる。」それは、王の民が王が入られる道を備えるようにという呼びかけです。大抵、結婚式にはプロセッションと呼ばれる行列があります。新郎の入場、祖父母の着席、両親の着席、新郎の付添人、新婦の付添人と続きます。その行列はすべて準備の一部です。何のための準備ですか。ある瞬間のためです。扉が開き、花嫁が到着し、皆が立ち上がるその瞬間です。この詩篇は行列の歌です。栄光の王を迎え入れるために人々を備えさせるための。真の王が来られる。私たちは何をすべきでしょうか。王を招き入れるために。町にではなく、人々の心にです。それは心の扉を大きく開けようという呼びかけです。王が入って来られるように。

詩篇24篇である人が叫びます。栄光の王 それはだれか。栄光の王とは誰なのか？

その方はアルファでありオメガ、始まりであり終わりであります。

ユダ族の獅子

良い羊飼い

不思議な助言者

主の主

メシア

インマヌエル

神の子羊

人の子

苦しみのしもべ

永遠の父

平和の君

義なる枝

すべての国の願い

肉となられたみことば

世の光

いのちのパン

真のぶどうの木
礎石
見えぬ神の似姿
すべての被造物の長子
栄光の神の輝きであり、神のご性質の正確な刻印
偉大な大祭司
私たちの友
弁護者
贖い主
信仰の創始者であり、完成者
死者の中から最初に生まれた方
屠られた子羊
偉大な白馬の乗り手
その名はイエス 栄光の王

ことばを唱えることはできます。ですが、主を心の中に迎え入れたことはありますか。歌をうたうこともできるかも知れません。ですが、個人的に主を知っておられますか。

現実には多くの人がそうしておられません。

ダビデがこの詩篇を書いたとき、神の臨在の象徴である主の箱をエルサレムに運んでいました。ですが、神の真の臨在がその丘に登るまで、イエスが棕櫚の日曜日にその丘に登った時まで、それは実現しませんでした。ロバにのって。ユダヤ教の典礼では、詩篇24篇は週の最初の日にならされました。それはユダヤの暦では私たちの日曜日に当たります。それは、棕櫚の日曜日、イエスがロバに乗ってエルサレムの門に入られるとき、祭司や宗教指導者たちが宮でこう歌っていたことを意味します。「7 門よ おまえたちの頭を上げよ。永遠の戸よ 上がれ。栄光の王が入って来られる。8 栄光の王とは だれか。強く 力ある主。戦いに力ある主。」イエスの時代の祭司や民は、その詩篇のことばを歌いましたが、そこに歌われている主を見逃していました。

- あなたはイエスを家に招き入れるかも知れません。
- 自分のスケジュールの中に含めるかも知れません。
- 自分の家族の中に招くかも知れません。
- 自分のお財布の中身に入ることを許すかも知れません。
- 自分の頭の中に入れるかも知れません。
- ですが、実際にあなたの心に招き入れておられるでしょうか。

他に方法はありません。ヨハネの福音書14:6でイエスは言われました。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」

Welcome the King
Psalm 24:1-10
July 27, 2025

Intro:

Good morning, my name is Chris Renfro. I serve at the Lead Pastor of Hope Church Union Hill. We are so grateful for YIBC and for your partnership to serve Jesus Christ.

This morning we'll be in Psalm 24 so if you have a Bible you can open it up there.

INTRO – we're going to do some quick Bible History to set up Psalm 24 - Most scholars believe that David wrote it to be sung as the "Ark of the Covenant" was being brought into Jerusalem after it had **been in enemy territory.**

In **Exodus 40** the tabernacle is built. God instructs His people to build the Ark of the Covenant, which symbolizes his presence. His glory dwells there in the tabernacle in a pillar of cloud by day and of fire by night. After the people wander in the wilderness for 40 years, they enter the Promised Land. They've been in the promised land for about 350 years, and they are in a battle at a place called **Ebenezer**, and they are losing... so they come up with the idea to bring the ark of the covenant to the battle, kind of like a good luck charm. And they lose it. The philistines capture it and it ends up being a curse to them. So the Philistines put it behind some cows and just try to send it back... its stops at a place called Beth-Shemesh - 1 Samuel 6:19 - ¹⁹And he struck some of the men of Beth-shemesh, because they looked upon the ark of the Lord. He struck seventy men of them, and the people mourned because the Lord had struck the people with a great blow. ²⁰Then the men of Beth-Shemesh said, ***"Who is able to stand before the Lord, this holy God? And to whom shall he go up away from us?"*** ²¹***So they sent messengers to the inhabitants of Kiriath-jearim, saying, "The Philistines have returned the ark of the Lord. Come down and take it up to you."***

So they ask for someone to come get it... and it is taken to the house of a man named Abinadab. For 20 years. The Ark stays at the house of Abinadab. Fast-forward – David is anointed as King, Saul has died. And the first thing that David does as King is to go an to get the Ark and to bring it back to its rightful place.

He throws it on a cart and has two of Abinadab's sons accompany it on its trip back. They hit a pothole on the way, the and one of the sons, name Uzzah, tries to catch it... and he is stuck down and dies. And David gets really mad at God and really scared... so they pull over and drop it off at the house of a man named **Obed-Edom**. And for 3 months, God blesses **Obed-Edom**.

After three months David is ready to bring the ark into Jerusalem – so, instead of a cart, he does it the right way, he gets the Levites and they transported it the way that Moses transported it, with poles, and they carry it into the Jerusalem with much rejoicing and dancing.

I share all that to set this up... David wrote this Psalm for this moment:

The main point of the Psalm 24 – is for you and I to Welcome the King into our lives. To open wide the doors of our hearts and to welcome him in. Not just one time, but every day of our lives.

How do you WELCOME the King of Glory?

First, 1) Recognize who He is – Psalm 24:1-2 - *The earth is the Lord's and the fullness thereof, the world and those who dwell therein, ²for he has founded it upon the seas and established it upon the rivers.*

Verses 1 and 2 say that God is the Owner, the Possessor, and Creator of everything; in Heaven and on Earth.

What does this mean?

A) All things are His - He is the creator of all things and he is the sustainer of all things. Who is this creator and sustainer of all things?

At our Church we just finished preaching through Colossians. Colossians 1:16-17 - For by him (Jesus) all things were created, in heaven and on earth, visible and invisible, whether thrones or dominions or rulers or authorities—**all things were created through him and for him.** ¹⁷ And he is before all things, and in him all things hold together.

It's not only the earth, (in a general sense) that belongs to Him... **but the fullness thereof** –

If you have kids you get this... my kids when they want to tell me that something is “**theirs**”. We have this most comfortable seat on our couch. The kids always want to call that spot and say that its “their spot.” Sometimes I have to remind them. That no spot in our house is there spot. The house isn't theirs; the couch isn't theirs, the yard isn't theirs, the food isn't theirs...

B) All Things Reflect His Glory.

This means that all creation reveals the glory of its creator:

Anyone an outdoor person? My oldest son and I do a father son trip and in may we went to Colorado. Rocky Mountain National Park – It was beautiful. It was majestic. It was awesome. But it was not divine in itself. It is subject to its creator and reveals the glory of its creator.

His creation reflects His glory: Mountains reflect his glory, the ocean reflects his glory, nature reflects his glory. The beach reflects his glory. The moon and the stars reflect his glory... you and I, especially reflect his glory. We are SPECIAL glory reflectors - The imago dei.

What does this mean for us?

You can trust Him.... You can trust the one who owns it all: - Do you believe that?
If EVERYTHING is the Lords. That changes that we that you live.

God owns it all, He sustains its all, He is deserving of all. Especially His people.

Second, how do you welcome the King of Glory?

2) Rest in what He's done. - Psalm 24:3-6 - ³Who shall ascend the hill of the Lord? And who shall stand in his holy place? ⁴He who has clean hands and a pure heart, who does not lift up his soul to what is false and does not swear deceitfully. ⁵He will receive blessing from the Lord and righteousness from the God of his salvation. ⁶Such is the generation of those who seek him, who seek the face of the God of Jacob. *Selah*

You may say, where is the **rest in these verses??** Ascending the Hill of the Lord.... What kind of hill is that? Is that a bunny slope or is that Mount Everest?

Clean hands, pure heart... None of this sounds like rest...

You can see how as David wrote this Psalm the need for purity. He recognized that anyone who came near to God's presence or even looked at it wrong was killed, or even accidentally touched it was killed...***To come before the presence of anyone in true authority you must be prepared.***

Meeting someone in a great position of power or authority – CEO or your company – a Celebrity ---a potential spouse.

But what is the comparison to coming before a HOLY God?

David describes the requirement for coming near to Gods presence.

A) Clean hands – External - This represents right actions – literally, is free from any guilt.

B) Pure heart – Internal - Must be blameless –pure motives, thoughts, and emotions.

C) Is not hypocritical – Does not pursue anything other than the Lord.

D) Is not deceitful – There is no deception or false motives in their heart.

This leaves us with a problem: Who can ascend that hill? Who can come into his presence?

Charles Spurgeon said in – ***“It is uphill work for the creature to reach the creator. Where is the mighty climber who can scale the towering heights?”***

The reality is none of us are strong enough to ascend the Hill of the Lord. None of us are good enough to stand in His presence. None of us are clean enough to come near...

You may be here this morning and your saying, I can't do that. I'm not good enough, I'm not strong enough, I'm not clean enough... you're in the company of every person who has ever walked this earth.

None of us could make our way to God... so He made a way to us.

John 1:14 – “¹⁴And the Word became flesh and dwelt among us, and we have seen his glory, glory as of the only Son from the Father, full of grace and truth.

He stands in our place and He give us His righteousness:

If our righteousness is found in Him we receive the blessing that David describes in Psalm 24:5 – “He will receive blessing from the Lord and righteousness from the God of his salvation.”

What does this mean for us? Rest in the one who stands in our place.

Rest in Him today. struggling? toiling? desperate? You can rest in Him today.

-He stands in your place. He has done the work.

Finally, how do you welcome the King of Glory?

3) Receive Him in your heart. - ⁷ Lift up your heads, O gates! And be lifted up, O ancient doors, that the King of glory may come in. ⁸Who is this King of glory? The Lord, strong and mighty, the Lord, mighty in battle! ⁹Lift up your heads, O gates! And lift them up, O ancient doors, that the King of glory may come in. ¹⁰Who is this King of glory? The Lord of hosts, he is the King of glory! *Selah*

This is a poetic liturgy with a call and response – **The people would sing** – Lift up your heads, O Gates!
And Be lifted up, O Ancient doors, that the king of glory may come in.

It's a call for the Kings people to prepare the way for the King to come in. --- In most weddings you have what is call the "**processional**". ---"The entrance of the groom... The seating of the grandparents, the seating of the parents, the groomsmen, the bridesmaids... The processional is all a part of the **preparation**... for what...? ***That moment***. That moment when the doors open and the bride as arrived... and everyone stands.

This Psalm is a processional song. To prepare the people for the great arrival of the Glorious King. The presence of the true King.

What are we to do? ***To let the king in***. Not into a city but into their hearts. It's a call to open wide the door of your heart. To make way for the King to come in.

In Psalm 24, someone would cry out... ***WHO IS THIS KING OF GLORY? Who is this King of Glory?***

He is the alpha and the omega, the beginning and the end.

He is the lion of the tribe of Judah.

HE is the good shepherd.

He is the wonderful counselor

HE is the Lord of Lords

He is Messiah

He is Immanuel

He is the Lamb of God.

HE is the Son of Man

He is the Suffering Servant

HE is Everlasting Father

HE is Prince of Peace

He is The Righteous Branch

HE is the Desire of all Nations

HE is the Word made Flesh

HE is the Light of the World

HE is the Bread of Life

HE is the True Vine

He is the Chief Cornerstone

HE is the Image of the Invisible God

HE is the firstborn overall of creation

HE is the radiance of the Glory of God and the exact imprint of his nature.

HE is the great High Priest

He is our friend

HE is our Advocate

HE is our Redeemer

HE is the Author and Finisher of our faith.

HE is the Firstborn from the Dead.

HE is the Lamb who was slain

HE is the Rider of the great White Horse.

HIS NAME IS JESUS. HE IS THE KING. OF. GLORY.

You can say the words. But have you welcomed him in your heart?

You can sing the songs. But do you know Him personally?

--The reality is that many people miss it.

When David wrote this Psalm, he was carrying the Ark; symbol of the presence of God up to Jerusalem;... But it wouldn't be realized until the true presence of God ascended that Hill... When Jesus ascended that Hill on Palm Sunday. ***Riding on a donkey.***

In Jewish liturgy Psalm 24 was sung on the first day of the week---in the Jewish calendar that would be our Sunday. So here is what that means, On Palm Sunday, as Jesus was riding through the city gates of Jerusalem on a donkey, the Priests, the religious leaders were in the temple singing ***these words.***

***“⁷ Lift up your heads, O gates! And be lifted up, O ancient doors, that the King of glory may come in. ⁸ Who is this King of glory? The Lord, strong and mighty, the Lord, mighty in battle!*”**

The priests and people of Jesus' day --they sang the words, but missed the one who the song was about.

- You may let Jesus into your house.
- You may let Jesus into your schedule.
- You may let Jesus into your family.
- You may let Jesus into your wallet
- You may let Jesus into your head
- **BUT HAVE YOU ACTUALLY LET HIM INTO YOUR HEART?**

There is no other way. - John 14:6 - Jesus said, “I am the way, and the truth, and the life. No one comes to the Father except through me.

Closing / Prayer